



「せんだいメディアテーク」はポータルサイトだ

仙台に行ってきた。図書館、ギャラリー、映像スタジオなどが入った文化施設「せんだいメディアテーク」(smt) **Jump 01** が1月末に開館したのだ。今年の7月に、このギャラリーで企画展を予定しているため、下見も兼ねて取材してきた。

まず建築が素晴らしい。7階建てのビル外壁すべてがガラスで、遠くから見るとガラス細工の箱のように見える。内部はさらにユニークで、一般的な意味での柱や壁が一切ない。水道や電気といったインフラ、そして人間を運ぶエレベーターまでもが、白いパイプ状の鉄を組み合わせた「チューブ」と呼ばれる部分に組み込まれている。

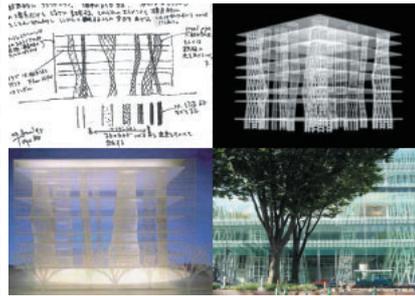
簡単に言うと縦に走るチューブを支えられた床面が7層あり、その外をガラスで覆っているというきわめて独創的な建物だ。これだけ前例がないものの設計や建設には、多くの人々の膨大な情熱とエネルギーが必要だったことは、素人の私でも容易に想像できる。構造設計を担当した佐々木睦朗氏は、6年前の計画初期段階での状況を次のように書いている。

「建築家の伊東豊雄さんから建築的ビジョンを表現した1枚の衝撃的なスケッチを受け取る。不定形なチューブが海藻のようにゆらゆらと揺れながら数枚の薄いプレートを支えているという、およそ現実離れをしたものであった。しかし詩情溢れるその1枚の絵には僕の想像力をかきたてる強烈な力が存在していた」 **Jump 02**。

その手描きのスケッチは、実物を見てきた目で見ると「うわ、これがあんな本物のビルになっちゃうんだ!」と驚かされるようなシンプルなもの、その後のコンピュータ画像によるシミュレーション、模型によるシミュレーションと計画が進行してゆくようすが実に興味深い。

伊東豊雄氏自身によれば、その「海藻のようなチューブ」は、情報の「渦」を形象化したものであるという。伝統的な建築が、水や空気の動きである「渦＝スパイラル」を用いることで自然とのつながりを表現してきたのと同様、電子的な環境には情報の「渦」をデザインに取り入れるべきだというコンセプトなのだ。

さて、その渦の実体となるべきsmtの中身だが、バ



提供：伊東豊雄建築設計事務所(スケッチ)
佐々木睦朗構造計画研究所(CG)

リアフリーを強く打ち出したり、オープニング企画のテーマが「ことば」だったり、決して派手ではないが自分の地元にもこんな施設があったらと思わせるようなものだ。1階はカフェとショップ、2～4階が図書館、5～6階がギャラリー、そして7階が映像のシアターとスタジオである。個人的には、smt経由で知った「建築をめぐる映画特集」に惹かれるし、視覚障害者を中心としたパフォーマンスグループ「こぼこ(香箱)の会」の朗読劇も観てみたい。もちろん、東京であればこうしたものが何らかの形で観られる可能性が高いのだが、ポータルサイトの意味で「1か所に集まっている」ことは極めて重要だと思う。

映画でも文章でも、豊富なリソースにアクセスできることの必要性は、今ここで強調するまでもないだろう。渋谷のレコードショップやお茶の水のコンピュータショップといったメディア系専門店が、後にデザイナーやCGアーティストを次々と輩出するコミュニティーだった事例は、私が知っているだけでもいくつもある。smtの場合、建物や施設が充実していることは明確だ。あとは運営側の意志やノリ次第だと思う。何年か先には、仙台ならではの映像やメディア作品が出てくることを期待しよう。

「せんだいメディアテーク」公式サイト

Jump 01 www.smt.city.sendai.jp

「せんだいメディアテークの構造」

Jump 02 www.um.u-tokyo.ac.jp/dmzk-umdb/publish_db/books/va/japanese/virtual/05.html



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp